



シベールが建設している複合施設の完成予想図。左がアリーナ、右が図書館

# シベール(山形)建設中の複合施設

# ホール、図書館開放

07.12.27  
山形

演劇上演  
など想定  
井上さん蔵書3万冊

洋菓子など製造、販売  
放する。

のシベール(山形市、熊谷真一社長)が、同市蔵王松ヶ丘三丁目目の本社敷地内に建設している多目的ホールと図書館の複合施設の概要が固まった。多目的ホールは演劇上演を中心に、スポーツやイベントの会場などとして地域に開放する。川西町出身の作家井上ひさしさんの蔵書三万冊を置く図書館も常時、一般開

放する。施設の名称は「シベールアリーナ&遼筆堂文庫山形館」。来年八月に完成、九月か十月にこけら落としを行う。アリーナは通常、体育館のように床が平らで、演劇などを上演するときは、いすを並べるひな壇がせり出す仕組みだ。

広さは約二千二百三十平方メートルで、五百人を収容できる。照明や音響などは演劇の上演を想定し、国内の一流の専門家がプロデュースした。年に一、二回、こまつ座の公演を行うほか、シベール主催のスポーツ大会、アマチュアバンドの発表会なども開く。

図書館では、詩集を中心とした蔵書を公開する。広さは約六百八十平方メートル。アリーナ、図書館ともに、川西町のフレンドリープラザを管理している。熱心なファンの中には、本社のある山形に足を運ぶ人も多しという。熊谷社長は「全国の人に山形の文化を発信する拠点にしたい」と話している。